

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101370		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす一番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208-1		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 5 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我社の理念である、「花木」といっても桜・梅・桃など、それぞれ色も形も咲く時期も異なるように「人」も生きてきた「道」や「環境」がそれぞれ異なります。その「人」に様々な問題があっても、それを認め、助け合い尊敬する家族のような温かな雰囲気の中で暮らしていただけるように、お一人お一人の想いを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 2 月 27 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「助け合い、尊敬する家族のような温かな雰囲気の中で暮らしていただけるよう」支援をしている。月1回、面会に来られる家族の方が、娘、息子夫婦、孫、ひ孫を連れてきてくれた。その後、トイレから帰ってきて顔を合わせ、息子の顔を見て、「あんた、なんでここにおるん？」との返事が返って来た。家族との外出を楽しみ、自宅へ帰った際には、「もう施設に帰りたくない」という会話も今では笑い話となっている。利用者同士が毎日、同じ話で盛り上がりたり、帰宅願望がある方には、利用者同士で「ここにおればええやん」と言うと「じゃあ、ここにおる」という会話が毎日のように飛び交っている。日中はリビングで過ごされる方が多く、パズルや塗り絵、新聞を読んだり、トランプをしたりして過ごしている。ババ抜きをしようとしたら、「どうせ私らはババだから」と愛のある笑いが絶えない。ユニットの垣根を越えて、お話し相手を探している男性利用者に対して、女性利用者は「また来たね」と上手にかわすテクニックが身に付いていた。塗り絵が好きな利用者は、自分が作成した作品を他の利用者にプレゼントし、居室にて大切に飾ってあった。両ユニットの管理者は、「1日1回は必ず利用者とのコミュニケーションを取ることを大切にし、笑顔になって頂けるように」と語ってくれ、まさに家庭的な雰囲気の中にいるように感じる施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を基にホームの理念を掲げているが、周知徹底が出来ていない。ユニット内での目標を毎月掲げて実践に繋げています。	法人理念は事務所、介護理念は各ユニットの入り口、今月の目標をリビングに掲示していて、行事担当の職員が今月の目標を決めている。ユニット会議の際に、振り返りの場を設けている。管理者の思いは、個性の大切や終わりよければ良しの精神で介護に徹している。	理念を細分化して、月目標と照らし合わせてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の行事の参加している	町内会に加入していて、回覧板が回ってくる。近隣の飲食店の広い敷地を利用させて頂き、散歩や満開の桜を見ることができた。近隣を散歩していたら大量のなすびを頂いてみんなが驚いていた。毎年みやすの集いに参加して、利用者が描いた絵を提供した。その際に無料のパンジーを頂いて、施設内で育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の作品を地域の行事などに出して理解してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催している。地域の方やご家族様に参加をしていただきサービス向上に取り組んでいます。	対面で実施できている。近隣住民、民生委員、地域包括、2つの町内から会長が参加していた。一番館と二番館の合同で開催していて、行事報告、地域の注意事項、詐欺対策、災害対策について報告を行った。質疑応答では、職員や利用者の体調を気遣う意見が多く挙がり、みんなの励みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの課題など岡山市事業指導課や岡山市東区地域包括支援センターに電話で相談をして指導を受けています。	福祉事務所との連携は、各ユニットの管理者が窓口となっている。必要書類は、郵送することが多いが、直接持参する場合もある。わからないことがあれば、電話をしたら親切・丁寧に教えて頂けた。直近では、生活保護の利用者についての問い合わせをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応しています。	年4回、虐待・身体拘束委員会を開催している。虐待や身体拘束をしないケアの知識や感情労働によるストレスの対処法について話し合った。事例検討や意見交換、グレーゾーンの確認やスピーチロックにならない言葉について話し合った。また、職員が日頃の介護について振り返る場ともなっている。	スピーチロックについて、再確認の場を設けてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束・虐待防止の研修や会議を行い、適切なケアが出来るように取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方がおられ活用できるように支援ができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基に入退去時には説明を行い、入居後も定期的に連絡を入れて不安・疑問の解消に取り組んでいます。入居時には要望書を渡し、どんな事でも伝えてもらえるように取り組んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に要望書をお渡ししたり、面会時にご意見やご要望を伺い、ご意見があればその都度に反映出来るように務めています。	面会は、各居室やホールで実施している。日常生活の様子を写真に撮り、家族に送信することで、家族の安心感に繋がっている。2ヶ月に1回「家族通信」に写真を添付して、担当者からのコメントが家族の楽しみとなっている。家族からは大手まんじゅう、愛媛出身の方からは大量のみかんが届いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議や普段のコミュニケーションの中から意見や提案を聴いています。上司に指示をもらいながら解決・反映できるように取り組んでいます。	何かあれば随時、管理者が話し合いの場を設けている。3つのユニットの管理者同士仲が良いので、何でも相談し合える関係となっている。10年以上の職員も多く、助け合うことができています。解決できない場合は、副部長に相談することもある。申し送り時や各ユニット会議の際に、意見が飛び交い、希望休も取得しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や取得後の資格手当、資格報奨金で給与に反映しています。向上心に差があるため環境作りが不十分です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを掲示したり定期的な職場内研修への参加を促したりしています。今年度は、適正に応じた研修への参加の働きかけを行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内で管理者は管理者会議で意見交換などが行っていますが、職員は他の事業所と交流が少なく、質の向上に繋がれず不十分でした。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシート、ケアプラン、ご家族の想いを職員間で共有し、日常生活の言動の変化を記録して、毎日の申し送り時などに話し合い、安心して生活できるように環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時に、ご家族の想いをしっかりと伺い、必要な支援を見極めて細目に伝えながら信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に、できるだけ多くの情報を伺い、ご本人とご家族の想いに沿ったケアプランを作成して支援・環境づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、双方が助け合いながら行い、常に感謝の気持ちをお伝えし信頼関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度、家族通信を写真と共に送付し近況報告を行ったり、入居者様の状況に応じて連絡をして面会に来ていただき協力して支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡などを行い関係が途切れないように努めています。ご本人が出来ない場合は、職員が代わりに行って関係継続の支援をしています。	面会は、各居室やホールで実施している。娘、息子夫婦、孫、ひ孫が来られて利用者は笑顔になっていた。自分の携帯電話で、家族の方と通話を楽しんでいる方もいる。家族との外出は可能で、金光町に住んでいる姉妹に会いに行かれた方もいる。リビングの席が馴染みの場所となり、食事やレクを楽しみながら、お隣同士で会話が盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるようにそれぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話題を話しながら孤独にならないように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも連絡下さる様、ご家族にお伝えし、相談などに対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個々に合った声掛けをし、訴えが難しい方でも今までの生活やご家族の情報を基に、ご本人の希望に添える様に努めています。	入居時に生活歴・人生のエピソードシートに、家族や昔のこと、性格を記入して頂いている。わからないことは、家族に聞くこともあり、お風呂や居室の1対1の場面で意見が言いやすくなっている。利用者から外に出たいとの要望が挙がり、駐車場を散歩したり、窓から外を眺めたりして、気分転換を図った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や普段の会話の中から色々な情報を拾い上げスタッフ間で共有し、個々に合った対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の中で、入居者様、一人一人に合わせた過ごしやすい空間を作り、入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場や状態に応じて、その都度、話し合い状態に合った計画を作成して、それに基づき介護を行っています。	入居時に暫定プランを立て、3ヶ月後にモニタリングを実施し、何もなければ6ヶ月で見直している。担当制を敷いているが、ケアマネジャーも介護職に従事しているので、情報共有がしやすくなっている。生活援助計画及び見直しシートに、困っていることや短期目標を掲げ、実際の支援経過を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそった一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望に対して、ご本人・ご家族のニーズに対応出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアの来所。移動図書館の利用を以前から計画しているが、コロナやインフルエンザがはやっているため、再度検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援しています。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂けるが、ほとんどの方が協力医に転医されている。往診は月2回あり、ドクターの関係も良く、何でも相談できる。薬剤師の訪問もあり、親切丁寧に対応して頂いている。他科受診は、基本は家族対応だが、緊急時には職員が同行している。週1回訪問歯科が来られ、歯科衛生士が口腔ケアをして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化を看護師に報告・相談して適切な対応ができるよう情報共有し、支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医と連携を取りながら、治療が終わり次第出来る限り早期退院が出来るように病院との連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を見ながら医師・看護師に相談し方針を決めつつ、ご本人・ご家族の希望に出来るだけ添えるように取り組んでいます。	看取りは実施しているが2年間はなかった。入居時に、重要事項説明書や「GHでの看取り介護サービス対応指針」にて同意を得ている。終末期に差し掛かった場合には、再度、本人・家族、ドクターの意見も参考にしている。終末期に入ると看護師や職員の意見を参考に計画を立てることで、安心感に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADLや酸素濃度測定器の導入を行い、急変時の対応は、研修・勉強会で対応出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域の協力体制が取れるようにしています。	年2回火災訓練、年1回土砂災害対策を実施した。連絡網を回しての通報訓練も実施できた。連絡網は各ユニット事務所に、ハザードマップは玄関と各ユニットの事務所に掲示している。備蓄は同法人内のGHのコンテナに水や食料、寝具を一括保管しているが、施設内も多少の備蓄がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛け・傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めています。	呼称は苗字に「さん」付けを基本としている。職員は言葉遣いに留意して、自分の親に対する思いで接している。利用者の立場になり、考えて支援することを大切にしている。虐待防止委員会、権利擁護の研修を実施している。ユニット会議の際には、言葉遣いについて気を付けるようにとの意見が挙がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがあり、その事柄を他の職員と共有し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場で1日の流れは、決まっていますが、一人一人の生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問美容を活用し髪を整えたり入浴して清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう支援しています。	社長からの提案があり、3食ケイタリングに変更して、職員の負担軽減に繋がった。食事中の雰囲気は和やかなムードに包まれ、美味しくうどんをすすることができた。利用者が食べやすいように量を調整したり、刻み食にして食べやすくしている。おやつ作りとして、ホットケーキや白玉団子を振舞った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量のチェックを行い一人一人に合った飲食量が確保できるよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回、歯科往診にて口腔清潔を保っています。一人一人の状態に応じた支援をしています。食事前には、嚥下体操を行い誤嚥予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをし、一人一人の人格を尊重しながら支援しています。	排泄チェック表を活用しているので、排泄パターンを把握することができ、失敗やパットの使用量が減った。失敗した場合には、「心配なくて大丈夫」と声をかけたら「ありがとう」と返事があり、和やかな雰囲気となっている。さり気なく耳元で言葉を掛けるようにして、利用者の尊厳を守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・青汁を取り入れて水分の摂取、栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を午前と午後にして、ご希望の時間に入浴できるよう支援し、又、入浴剤を使用して温泉気分を楽しんでもらっています。	週2～3回で、利用者の入る時間帯に合わせて職員の配置に工夫を凝らしている。入浴剤を毎日使用することで、自然の気分を味わうことができている。季節湯としてゆず湯の提供もできた。拒否される方は、ほとんどいなくスムーズは流れとなっているが、一部の方へは、時間帯や職員を変えて対応している。冬には暖房を付けて温める工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしています。一人一人の体調を考慮し安眠や休息の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにして、服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず飲まれるまで側で支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を行事担当が伺いながら、計画を立てています。	万富方面へ桜を見にドライブへ行き、つくし取りをして春の風を感じることができた。ドライブへ行かない方へは、近隣に咲く満開の桜を見ることができた。毎年初詣には牛窓神社でお参りをして、駄菓子屋で出掛けた。足王神社に出掛けて、大きな足の像をさすって手を合わせていた。気候の良い日には、近隣の散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人との電話や面会などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、季節感のある飾りを取り入れています。	日中は両ユニットの行き来は可能。1日15分間のペダル漕ぎが日課となっていて、ストレス軽減にも繋がっている。午後のレクでは、歌を歌ったり、塗り絵、パズルをしたりして過ごしている。行事では、職員が抹茶を立てたら喜んで頂けた。キャップを使ったスタッフの手作りのパズルをしている方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD等を流してソファを配置して自由に座っていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物を持って来ていただき、自宅に近い雰囲気心地よく生活が出来るように工夫しています。	窓からは満開の桜や田園風景が一望できる。予定表を貼り、1日の流れがわかるようしたり、ベッドの位置を安全面に配慮して設置する工夫が見られた。居室は、塗り絵の作品や家族や孫・ひ孫の写真が飾られ、新聞やTVを観て過ごしている方もいる。馴染みのぬいぐるみを抱いて寝ている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分は手すりが設置されて歩行が不安定な方でも安心して移動が出来るようになっています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101370		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす一番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208-1		
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 5 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我社の理念である、「花木」といっても桜・梅・桃など、それぞれ色も形も咲く時期も異なるように「人」も生きてきた「道」や「環境」がそれぞれ異なります。その「人」に様々な問題があっても、それを認め、助け合い尊敬する家族のような温かな雰囲気の中で暮らしていただけるように、お一人お一人の想いを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 2 月 27 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「助け合い、尊敬する家族のような温かな雰囲気の中で暮らしていただけるよう」支援をしている。月1回、面会に来られる家族の方が、娘、息子夫婦、孫、ひ孫を連れてきてくれた。その後、トイレから帰ってきて顔を合わせ、息子の顔を見て、「あんた、なんでここにおるん？」との返事が返って来た。家族との外出を楽しみ、自宅へ帰った際には、「もう施設に帰りたくない」という会話も今では笑い話となっている。利用者同士が毎日、同じ話で盛り上がり、帰宅願望がある方には、利用者同士で「ここにおればええやん」と言うと「じゃあ、ここにおる」という会話が毎日のように飛び交っている。日中はリビングで過ごされる方が多く、パズルや塗り絵、新聞を読んだり、トランプをしたりして過ごしている。ババ抜きをしようとしたら、「どうせ私らはババだから」と愛のある笑いが絶えない。ユニットの垣根を越えて、お話し相手を探している男性利用者に対して、女性利用者は「また来たね」と上手にかわすテクニックが身に付いていた。塗り絵が好きな利用者は、自分が作成した作品を他の利用者にプレゼントし、居室にて大切に飾ってあった。両ユニットの管理者は、「1日1回は必ず利用者とのコミュニケーションを取ることを大切にし、笑顔になって頂けるように」と語ってくれ、まさに家庭的な雰囲気の中にいるように感じる施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を基にホームの理念を掲げているが、周知徹底が出来ていない。ユニット内での目標を毎月掲げて実践に繋げています。	法人理念は事務所、介護理念は各ユニットの入り口、今月の目標をリビングに掲示していて、行事担当の職員が今月の目標を決めている。ユニット会議の際に、振り返りの場を設けている。管理者の思いは、個性の大切や終わりよければ良しの精神で介護に徹している。	理念を細分化して、月目標と照らし合わせてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の行事の参加している	町内会に加入していて、回覧板が回ってくる。近隣の飲食店の広い敷地を利用させて頂き、散歩や満開の桜を見ることができた。近隣を散歩していたら大量のなすびを頂いてみんなが驚いていた。毎年みやすの集いに参加して、利用者が描いた絵を提供した。その際に無料のパンジーを頂いて、施設内で育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の作品を地域の行事などに出して理解してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催している。地域の方やご家族様に参加をしていただきサービス向上に取り組んでいます。	対面で実施できている。近隣住民、民生委員、地域包括、2つの町内から会長が参加していた。一番館と二番館の合同で開催していて、行事報告、地域の注意事項、詐欺対策、災害対策について報告を行った。質疑応答では、職員や利用者の体調を気遣う意見が多く挙がり、みんなの励みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの課題など岡山市事業指導課や岡山市東区地域包括支援センターに電話で相談をして指導を受けています。	福祉事務所との連携は、各ユニットの管理者が窓口となっている。必要書類は、郵送することが多いが、直接持参する場合もある。わからないことがあれば、電話をしたら親切・丁寧に教えて頂けた。直近では、生活保護の利用者についての問い合わせをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応しています。	年4回、虐待・身体拘束委員会を開催している。虐待や身体拘束をしないケアの知識や感情労働によるストレスの対処法について話し合った。事例検討や意見交換、グレーゾーンの確認やスピーチロックにならない言葉について話し合った。また、職員が日頃の介護について振り返る場ともなっている。	スピーチロックについて、再確認の場を設けてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束・虐待防止の研修や会議を行い、適切なケアが出来るように取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方がおられ活用できるように支援ができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を基に入退去時には説明を行い、入居後も定期的に連絡を入れて不安・疑問の解消に取り組んでいます。入居時には要望書を渡し、どんな事でも伝えてもらえるように取り組んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に要望書をお渡ししたり、面会時にご意見やご要望を伺い、ご意見があればその都度に反映出来るように務めています。	面会は、各居室やホールで実施している。日常生活の様子を写真に撮り、家族に送信することで、家族の安心感に繋がっている。2ヶ月に1回「家族通信」に写真を添付して、担当者からのコメントが家族の楽しみとなっている。家族からは大手まんじゅう、愛媛出身の方からは大量のみかんが届いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット会議や普段のコミュニケーションの中から意見や提案を聴いています。上司に指示をもらいながら解決・反映できるように取り組んでいます。	何かあれば随時、管理者が話し合いの場を設けている。3つのユニットの管理者同士仲が良いので、何でも相談し合える関係となっている。10年以上の職員も多く、助け合うことができています。解決できない場合は、副部長に相談することもある。申し送り時や各ユニット会議の際に、意見が飛び交い、希望休も取得しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や取得後の資格手当、資格報奨金で給与に反映しています。向上心に差があるため環境作りが不十分です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを掲示したり定期的な職場内研修への参加を促したりしています。今年度は、適正に応じた研修への参加の働きかけを行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所内で管理者は管理者会議で意見交換などが行っていますが、職員は他の事業所と交流が少なく、質の向上に繋がれず不十分でした。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシート、ケアプラン、ご家族の想いを職員間で共有し、日常生活の言動の変化を記録して、毎日の申し送り時などに話し合い、安心して生活できるように環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時に、ご家族の想いをしっかりと伺い、必要な支援を見極めて細目に伝えながら信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に、できるだけ多くの情報を伺い、ご本人とご家族の想いに沿ったケアプランを作成して支援・環境づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、双方が助け合いながら行い、常に感謝の気持ちをお伝えし信頼関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度、家族通信を写真と共に送付し近況報告を行ったり、入居者様の状況に応じて連絡をして面会に来ていただき協力して支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話連絡などを行い関係が途切れないように努めています。ご本人が出来ない場合は、職員が代わりに行って関係継続の支援をしています。	面会は、各居室やホールで実施している。娘、息子夫婦、孫、ひ孫が来られて利用者は笑顔になっていた。自分の携帯電話で、家族の方と通話を楽しんでいる方もいる。家族との外出は可能で、金光町に住んでいる姉妹に会いに行かれた方もいる。リビングの席が馴染みの場所となり、食事やレクを楽しみながら、お隣同士で会話が盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるようにそれぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話題を話しながら孤独にならないように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも連絡下さる様、ご家族にお伝えし、相談などに対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個々に合った声掛けをし、訴えが難しい方でも今までの生活やご家族の情報を基に、ご本人の希望に添える様に努めています。	入居時に生活歴・人生のエピソードシートに、家族や昔のこと、性格を記入して頂いている。わからないことは、家族に聞くこともあり、お風呂や居室の1対1の場面で意見が言いやすくなっている。利用者から外に出たいとの要望が挙がり、駐車場を散歩したり、窓から外を眺めたりして、気分転換を図った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や普段の会話の中から色々な情報を拾い上げスタッフ間で共有し、個々に合った対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の中で、入居者様、一人一人に合わせた過ごしやすい空間を作り、入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場や状態に応じて、その都度、話し合い状態に合った計画を作成して、それに基づき介護を行っています。	入居時に暫定プランを立て、3ヶ月後にモニタリングを実施し、何もなければ6ヶ月で見直している。担当制を敷いているが、ケアマネジャーも介護職に従事しているので、情報共有がしやすくなっている。生活援助計画及び見直しシートに、困っていることや短期目標を掲げ、実際の支援経過を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそった一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望に対して、ご本人・ご家族のニーズに対応出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアの来所。移動図書館の利用を以前から計画しているが、コロナやインフルエンザがはやっているため、再度検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援しています。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂けるが、ほとんどの方が協力医に転医されている。往診は月2回あり、ドクターの関係も良く、何でも相談できる。薬剤師の訪問もあり、親切丁寧に対応して頂いている。他科受診は、基本は家族対応だが、緊急時には職員が同行している。週1回訪問歯科が来られ、歯科衛生士が口腔ケアをして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化を看護師に報告・相談して適切な対応ができるよう情報共有し、支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、主治医と連携を取りながら、治療が終わり次第出来る限り早期退院が出来るように病院との連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を見ながら医師・看護師に相談し方針を決めつつ、ご本人・ご家族の希望に出来るだけ添えるように取り組んでいます。	看取りは実施しているが2年間は無かった。入居時に、重要事項説明書や「GHでの看取り介護サービス対応指針」にて同意を得ている。終末期に差し掛かった場合には、再度、本人・家族、ドクターの意見も参考にしている。終末期に入ると看護師や職員の意見を参考に計画を立てることで、安心感に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADLや酸素濃度測定器の導入を行い、急変時の対応は、研修・勉強会で対応出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域の協力体制が取れるようにしています。	年2回火災訓練、年1回土砂災害対策を実施した。連絡網を回しての通報訓練も実施できた。連絡網は各ユニット事務所に、ハザードマップは玄関と各ユニットの事務所に掲示している。備蓄は同法人内のGHのコンテナに水や食料、寝具を一括保管しているが、施設内も多少の備蓄がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛け・傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めています。	呼称は苗字に「さん」付けを基本としている。職員は言葉遣いに留意して、自分の親に対する思いで接している。利用者の立場になり、考えて支援することを大切にしている。虐待防止委員会、権利擁護の研修を実施している。ユニット会議の際には、言葉遣いについて気を付けるようにとの意見が挙がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがあり、その事柄を他の職員と共有し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場で1日の流れは、決まっていますが、一人一人の生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問美容を活用し髪を整えたり入浴して清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう支援しています。	社長からの提案があり、3食ケイタリングに変更して、職員の負担軽減に繋がった。食事中の雰囲気は和やかなムードに包まれ、美味しくうどんをすることができた。利用者が食べやすいように量を調整したり、刻み食にして食べやすくしている。おやつ作りとして、ホットケーキや白玉団子を振舞った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量のチェックを行い一人一人に合った飲食量が確保できるよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回、歯科往診にて口腔清潔を保っています。一人一人の状態に応じた支援をしています。食事前には、嚥下体操を行い誤嚥予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをし、一人一人の人格を尊重しながら支援しています。	排泄チェック表を活用しているので、排泄パターンを把握することができ、失敗やパットの使用量が減った。失敗した場合には、「心配なくて大丈夫」と声をかけたら「ありがとう」と返事があり、和やかな雰囲気となっている。さり気なく耳元で言葉を掛けるようにして、利用者の尊厳を守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・青汁を取り入れて水分の摂取、栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を午前と午後にして、ご希望の時間に入浴できるよう支援し、又、入浴剤を使用して温泉気分を楽しんでもらっています。	週2～3回で、利用者に入る時間帯に合わせて職員の配置に工夫を凝らしている。入浴剤を毎日使用することで、自然の気分を味わうことができている。季節湯としてゆず湯の提供もできた。拒否される方は、ほとんどいなくスムーズは流れとなっているが、一部の方へは、時間帯や職員を変えて対応している。冬には暖房を付けて温める工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしています。一人一人の体調を考慮し安眠や休息の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにして、服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず飲まれるまで側で支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を行事担当が伺いながら、計画を立てています。	万富方面へ桜を見にドライブへ行き、つくし取りをして春の風を感じることができた。ドライブへ行かない方へは、近隣に咲く満開の桜を見ることができた。毎年初詣には牛窓神社でお参りをして、駄菓子屋で出掛けた。足王神社に出掛けて、大きな足の像をさすって手を合わせていた。気候の良い日には、近隣の散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人との電話や面会などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、季節感のある飾りを取り入れています。	日中は両ユニットの行き来は可能。1日15分間のペダル漕ぎが日課となっていて、ストレス軽減にも繋がっている。午後のレクでは、歌を歌ったり、塗り絵、パズルをしたりして過ごしている。行事では、職員が抹茶を立てたら喜んで頂けた。キャップを使ったスタッフの手作りのパズルをしている方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD等を流してソファを配置して自由に座っていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物を持って来ていただき、自宅に近い雰囲気心地よく生活ができるように工夫しています。	窓からは満開の桜や田園風景が一望できる。予定表を貼り、1日の流れがわかるようしたり、ベッドの位置を安全面に配慮して設置する工夫が見られた。居室は、塗り絵の作品や家族や孫・ひ孫の写真が飾られ、新聞やTVを観て過ごしている方もいる。馴染みのぬいぐるみを抱いて寝ている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分は手すりが設置されて歩行が不安定な方でも安心して移動ができるようになっています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				